

# ふるさとの昔話

## 中丸の弁天さん

田子浦地区の中丸には、弁天さんをまつた小さな社があります。弁天さんは漁師の多かった昔、大切な海の守り神でした。今回は中丸の弁天さんのお話です。



中丸の弁天さん



## 漁師が大魚を願う

昔、中丸には海に出て魚をとる漁師が大勢住んでいました。ある年、魚がほんの少ししかとれなくなり、人々は暮らしに困ってしまいました。困った漁師たちは、

「なんとかして、魚がたくさんとれる方法はないかな」「そうだ、海の神様にお願ひしよう」「それがいい、そうしよう」と相談して、中丸の小さな丘に

弁天さんをまつりました。漁師たちは毎日お供えものをして、一生懸命お祈りしました。幾日かたつて、たくさん魚がとれるようになり、村の人々は大喜びしました。

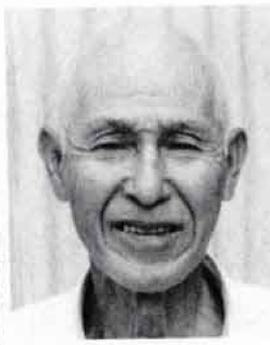
「弁天さんのおかげだと、お礼のお参りもしました。静まった大波」と、お礼のお参りもしました。あるとき、ものすごい台風が来て、大波が家のすぐ近くまで押し

寄せて来ました。村の人々は、夢中で弁天さんの丘へ逃げました。真つ暗な海は、まるで魔物が暴れ狂っているようで、人々は恐ろしさに震えていました。そのとき、

「弁天さん、助けてください」と、だれかが言いました。みんなも声を合わせてお願いしました。すると急に、荒れ狂っていた大波は静まり、みんな助かりました。

不幸なことがあるとお参り

弁天さんの近くに住む貫名仁治さん(七十歳)は「弁天さんは江戸時代からまつられるようになったと聞いています。今じゃこの辺も漁師が少なくなつて、何か不幸なことがあると、お参りする人が多いね」と語ってくれました。



貫名仁治さん

## 地名の由来

### 和田 (今泉地区)



今泉一丁目付近を和田といい、義盛神社をまつり、西側の川を和田川といいます。源頼朝が富士の巻狩りのとき、和田義盛の家臣が、このとりでを守っていたので和田という地名になったという言い伝えがあります。また、一説では、「壱」は「わだ」と読んで開壱を意味するのだと、「壱」を和田と読んだとも、また、日吉浅間の祭神「わだつみ」のわだともいわれます。

## こちら編集室

広報広聴課は、市民の皆さんのご要望により公共施設見学も行っていきます。九月は百三十人の参加がありました。人気ナンバーワンの施設は、八月にできた齋場。案内役をつとめる編集室のS氏は、齋場の手順をすでにマスター。彼いわく「これで迷わず成仏できる。」

## 交通機関の発達



現在の富士駅入口

明治22年、東海道線の開通に伴い、鈴川駅(今の吉原駅)が開設されました。当時は上り下りとも1日に4・5本。東京の新橋まで約5時間半を要しました。

翌年、鈴川駅から吉原宿を通過して大宮町(富士宮市)に至る馬車鉄道がつくられました。これは、道路に線路を敷いて、人と荷物を運ぶ最新式の交通機関として登場し、さびれていた吉原の町を発展させました。

また、東海道線の富士駅は富士製紙第八工場(現在の本州製紙)の誘致運動と並行して行われ、明治42年に開設されました。

明治45年には、富士身延鉄道株式会社が発設され、大正2年に富士一大宮間が開通しました。昭和3年に甲府まで開通し、現在の身延線に至っています。(文は、郷土史家鈴木富男氏の著書を参考にしています)



新たな創造  
確かな発展  
—はたちの富士市—

## 新市二十周年記念 十月の主な行事

- ☆第二十回スポーツ祭開会式 十日 陸上競技場ほか
- ☆富士市民自然保護のつどい 十九日 富士文化センター
- ☆博物館特別展「富士の今昔我が家の家宝」 二十一日から 市立博物館
- ☆フェスタふじ20 二十六日 市役所駐車場ほか
- ☆NHK交響楽団演奏会 二十九日 富士文化センター